

1 病院全体の指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
延べ入院・外来患者数 平均在院日数 病床利用率（運用病床）	80,598 人	79,981 人	59,069 人	延べ入院患者数：退院患者数+当日末在院患者数	1年間の延べ入院患者及び1年間の延べ外来患者の数です。
	110,423 人	111,167 人	98,128 人	延べ外来患者数：初診患者数+再診患者数	
	7.8 日	7.6 日	7.4 日	平均在院日数：延在院患者数÷(新入院患者数+退院患者数)÷2 ※亜急性期病床、地域包括ケア病棟を除く	1人の患者さんが平均何日間入院しているのかを示す指標です。地域の医療機関と連携などによって、短期間で退院できるよう努めています。
	(一般) 79.7 %	(一般) 78.9 %	(一般) 58.4 %	病床利用率：延入院患者数÷延運用病床数×100 (医療法上の区分)	病床利用率とは運用病床数に対し、入院患者がどのくらいの割合で入院していたかを示す指標であり、病床利用率が高いことは、ベッドを効率的に運用していることを表しています。病床の機能により違いがあるため、一般、精神、感染症病床別に率を出しています。
	(精神) %	(精神) %	(精神) %		
(感染) %	(感染) %	(感染) %			
CPC（臨床病理検討会）実施件数	2.0 回	2.0 回	2.0 回	年度内の開催実績数	医療の質向上を図るために行っている、勉強会の1つであるCPC（臨床病理検討会）を開催した件数です。
クリニカルパス実施状況	53.0 %	54.2 %	51.4 %	実施率：パス適用件数÷新入院患者数	入院から退院までの治療や処置、検査、看護などのスケジュールを時系列に示したクリニカルパスの作成を通じて、わかりやすく均質で無駄のない医療の提供に努めています。
2 手術に関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
内視鏡検査件数、主な処置件数	①5,256 (1)2,388 (2)140 (3)20 (4)2,696 (5)12 ②1,588 件	①5,571 (1)2,524 (2)181 (3)47 (4)2,813 (5)6 ②1,712 件	①4,359 (1)2,026 (2)156 (3)13 (4)2,164 (5)0 ②1,074 件	①検査数 (1)上部内視鏡、(2)膵臓・胆管系、(3)気管支鏡、(4)下部内視鏡)、②治療数	内視鏡検査と治療の件数です。検査については、(1)食道、胃などの上部、(2)膵臓・胆管、(3)気管支、(4)大腸などの下部に種類を分けております。
3 がん医療に関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
外来化学療法件数	1,222 件	1,151 件	1,038 件	外来で化学療法を実施した件数(外来化学療法加算)	抗がん剤を使用した化学療法の件数です。外来での治療は自宅での生活を続けながら治療を行うことができるため、精神的、経済的な負担低減にも寄与します。
放射線治療件数、症例数	件数 3,789 症例数 128 件	件数 3,003 症例数 132 件	件数 3,929 症例数 133 件	放射線治療件数、症例数 高エネルギーX線装置による通常の照射とIMRTの1回目の放射線管理料を取得した数、及び定位の患者数。(小線源治療は除く)	放射線は手術、抗がん剤とともにがん治療における重要な役割を果たしています。リニアック等の放射線治療装置を使用して、放射線治療を行った件数及び症例数です。
	(内訳) IMRT 件数 症例数 件	(内訳) IMRT 件数 件数 0 件 症例数 0 件	(内訳) IMRT 件数 件数 0 件 症例数 0 件		
	(内訳) 定位 件数 症例数 件	(内訳) 定位 件数 件数 0 件 症例数 0 件	(内訳) 定位 件数 件数 0 件 症例数 0 件		
がんサポート開催件数	3 件	1 件	2 件	開催実績(件数)	がんサポートとは、内科、外科、放射線科など各専門領域の医師等が一堂に会して患者さんの治療法を包括的に話し合う場のことです。
緩和ケアチームの活動実績	定例会 10 カンファレンス 51 広報誌発行数 1 回	定例会 10 カンファレンス 51 広報誌発行数 0 回	ラウンド 150 カンファレンス 51 広報誌発行数 0 回	緩和ケアチームの活動実績数	当院の緩和ケアチームは、主にがん疾患患者及びその家族が療養中体験する、様々な苦痛を全人的な視点でケアするために、多職種のスタッフが多角的な視点でサポートする活動チームです。開催実績は、定例会・カンファレンス・広報誌発行件数等の活動実績数です。
4 救急医療の指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
救急患者数(1日あたり)	28.8 人	28.3 人	21.7 人	(救急入院患者数+救急外来患者数)÷年間営業日数	救急医療は当院の重点医療のひとつであり、休日・全夜間診察事業を引き続き実施するなど、積極的な患者受入に努めています。
救急搬送受入件数	2,792 人	3,228 人	2,000 人	救急患者のうち、来院方法が「救急車」の患者数	

5 放射線及び検査に関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
緊急対応可能検査項目数及び緊急対応可能検査項目数の割合	検体 91 個 89.2 % 生理 28 個 84.8 %	検体 91 個 89.2 % 生理 31 個 88.6 %	検体 97 個 86.6 % 生理 34 個 89.5 %	院内で実施する検体検査で検査科受付後60分以内の報告、および生理検査で当日報告の可能な緊急対応可能検査項目数とその割合（緊急対応可能検査項目数÷全体検査項目数×100）	院内で実施する検査のうち、救急患者や入院患者の急変などに対応し、院内で緊急に行える検査がどのくらいあるかを表しています。
緊急検査のTAT（ターンアラウンドタイム）	34分30秒 分秒	33分53秒 分秒	32分54秒 分秒	病院で実施する生化学検査における、緊急検査依頼の検査科受付から報告確定までの平均時間	TAT（ターンアラウンドタイム）とは検体が検査科に来てから検査結果が確定するまでの時間のことです。検査結果を迅速に報告することで、医師が治療方針を早期に決定することができ、医療の質向上に寄与します。
CT、MRI、血管造影、マンモグラフィの検査人数	CT 10,767 人	CT 10,939 人	CT 9,349 人	CT、MRI、血管造影、マンモグラフィの検査患者数	検査の中でも件数の多い、CT、MRI、血管造影、マンモグラフィそれぞれの検査患者数です。
	MRI 4,801 人	MRI 4,745 人	MRI 4,003 人		
	血管造影 498 人	血管造影 435 人	血管造影 379 人		
	マンモ 806 人	マンモ 637 人	マンモ 556 人		
放射線及び検査に関する指標 ・冠動脈CTの件数 ・大腸CTの件数 ・心臓MRI ・乳房MRI	冠動脈CT 218 件	冠動脈CT 219 件	冠動脈CT 161 件	年間の冠動脈CT、大腸CT、心臓MRI、乳房MRIの検査患者数	特色のある検査(冠動脈CT・大腸CT・乳房MRI)が行われていることを表します。
	大腸CT 51 件	大腸CT 44 件	大腸CT 45 件		
	心臓MRI 0 件	心臓MRI 0 件	心臓MRI 0 件		
	乳房MRI 43 件	乳房MRI 41 件	乳房MRI 57 件		
放射線及び検査に関する指標 ・CT、MRI検査の予約外当日検査の件数	CT 4,102 件	CT 4,455 件	CT 3,630 件	年間のCTとMRIの予約外受入れ検査患者数	救急はもとより、予約外の検査を積極的に受入れることは早期診断・治療に役立ち、急性期病院としての診療支援体制が充実していることを表します。
	MRI 678 件	MRI 629 件	MRI 411 件		
臨床検査に係る精度管理調査評価評点	日本医師会 100.0 点	日本医師会 98.3 点	日本医師会 98.0 点	外部精度管理における日本医師会臨床検査精度管理調査の結果（評価項目修正点数）、日本臨床検査技師会精度管理調査の結果（AB評価％）	日本医師会は、総タンパク、ブドウ糖、尿酸など検体検査40以上の検査項目について、サーベイを実施した結果の項目修正点数(100点満点)です。日臨技は、検体検査、微生物、輸血、生理、病理、細胞など180以上の評価項目について、サーベイを実施した結果の望ましいとされる評価A、評価Bの件数の割合です。
	日臨技 98.6 %	日臨技 99.5 %	日臨技 100 %		
放射線科医師による読影レポート数	16,489 件	16,554 件	14,060 件	放射線科医師によって作成された、CT、MRI等検査にかかる読影レポート数	放射線科の医師による専門的見地から、検査結果に基づいた画像診断・助言を行っている件数です。
ME機器点検実施件数	12,618 件	12,773 件	11,511 件	ME機器（医療機器）の日常点検、定期点検の件数（臨床工学技士実施分）	ME機器の使用時の故障を未然に防ぎ、検査の安全性を保つために、使用前や使用後及び一定の期間毎に行っている点検の件数です。
施設認定取得の有無	有・無	有・無	有・無	検診マンモグラフィ施設画像評価認定の有無	検診マンモグラフィ施設画像評価認定施設であることは、撮影装置や実際に撮影されたマンモグラフィ画像や、撮影に要したX線量が適正であると第三者機関から評価された結果であり検査精度の高さを意味しています。
	有・無	有・無	有・無	IVR被曝低減推進認定の有無	IVR被曝低減推進認定施設であることは、患者や術者の被ばくを適切に管理し、被ばく低減に向けた改善を行うことで安全で質の高い画像下治療を実施していることを意味しています。
スタッフ対応率	83.2 %	85.5 %	未実施 %	患者満足度調査で「診療放射線技師の対応は丁寧だったか」の設問に十分、ほぼ十分と回答した患者数/調査に回答した患者数	患者満足度とは、医療の質を患者側の視点で評価した結果であり、値が高いことは放射線科の患者対応が丁寧で、患者中心の良質な医療を提供していることを表しています。
剖検率	1.9 %	1.4 %	0.3 %	年間剖検数÷年間患者死亡数×100(%)	当院で死亡された患者さんの中で病理解剖がなされた割合です。病理解剖は死亡の原因や治療の効果を確認、今後の医療に役立てていく意義があります。
血液培養2セット率	99.2 %	99.2 %	99.6 %	(合計採取セット数-合計SBCセット数)÷合計採取セット数×100(%) ※ SBCとは1セットでの提出	菌の検出率を上げ、起炎菌の決定をしやすくするために、異なる部位2カ所から採血した血液培養ボトルを2セット提出することが推奨されています。感染症治療において、適切な治療を的確に行うための指標となっています。(小児では2セット採取が難しい場合が多いため、小児を除いた数値となります。)
黄色ブドウ球菌MRSA比率	29.1 %	29.7 %	34.9 %	MRSA検出数÷黄色ブドウ球菌検出数×100(%) ※同月内は初回検出のみを算出	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)は、院内感染を起こす代表的な菌であり、多数の薬剤に耐性を示す薬剤耐性菌です。黄色ブドウ球菌MRSA比率により、抗菌薬適正使用及び感染対策を効果的に実施できているかが分かります。
6 薬剤に関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
服薬指導件数（入院・外来）	入院10,564 件	入院 12,756 件	入院8,913 件	(入院)入院服薬指導業務指導件数 (外来)外来服薬指導業務指導件数	患者さんへの薬物療法の効果や副作用などの説明・アドバイスを通じて、患者さんの薬物療法への理解を深めるとともに、より安全で効果的な薬物療法を受けられるよう薬剤師が活動した件数です。
	外来4,788 件	外来 4,718 件	外来3,558 件		
入院患者の服薬指導実施率	65.1 %	71.5 %	64.0 %	服薬指導指導人数÷入院患者数 ×100	上記活動（服薬指導）を入院患者さんに対して行った割合です。
ジェネリック使用率	89.1 %	92.8 %	94.3 %	「後発医薬品の数量」÷（「後発医薬品のある先発医薬品の数量」+「後発医薬品の数量」） ※数量とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいいます。	当院における入院医療で使用される全薬剤のうちジェネリック（後発医薬品）の割合です。ジェネリックは開発コストが大幅に削減されているため、先発医薬品に比べると安価になるなどの特徴があります。
薬剤師による抗がん剤等のミキシング数（処方箋枚数）	入院1,585 件	入院 1,511 件	入院1,131 件	抗がん剤ミキシング件数	薬剤師が安全キャビネットなどを使用して、抗がん剤のミキシングを行った処方箋枚数です。
	外来1,316 件	外来 1,415 件	外来1,295 件		
退院時薬剤情報管理指導料算定件数	2,920 件	3,205 件	1,986 件	退院時薬剤情報管理料算定件数	退院時薬剤情報管理指導料の算定においては、患者の退院時に服薬指導を実施するとともに薬手帳に保険薬局での調剤に必要な服薬状況、投薬上の工夫等を記載しなければならず、この件数は薬業連携の度合いを示しています。
プレアボイド（薬剤師による副作用等未然回避）報告件数	1 件	24 件	21 件	日本病院薬剤師会への報告件数	プレアボイドは、薬剤師による副作用、相互作用等に未然防止事例を日本病院薬剤師会に報告する制度である。高度な疑義照会事例ともいえ、薬剤師業務の質の指標となります。

7 栄養に関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
栄養食事指導件数（個別・集団）	個別 2,626 件	個別 2,676 件	個別 2,701 件	個別栄養食事指導件数、集団栄養食事指導回数及び人数	患者さんに対して、医師の指示により管理栄養士が食事療法について説明し、食生活改善の支援を行っています。個人の生活スタイルに合わせた個別指導と教室形式で行う集団指導があります。
	集団 61 回 161 人	集団 43 回 122 人	集団 17 回 44 人		
入退院支援件数	入院前支援 420 件	入院前支援件数 497 件	入院前支援件数 1232 件	入院前から退院後までを見据えた適切な栄養管理に管理栄養士が関与しています。 ① 入院前に栄養評価等を行い、入院1食目から安全で適切な治療食提供を行っています。 ② 退院後も適切な栄養管理が継続できるよう、多職種が連携して行う退院支援のためのカンファレンス等に管理栄養士が参画しています。 ③ 疾患や治療のために低栄養状態の患者さんに対して、多職種連携の栄養サポートチームが適切な栄養管理となるよう支援しています。 ④ 退院後も患者さんが適切な食事を継続できるよう、転院先スタッフやケアマネジャーに当院における治療食の状況を情報として提供しています。	入院前に食欲不振、体重減少、食物アレルギー等の有無を確認すると共に栄養評価を行い、入院1食目から安全で適切な治療食提供を行っています。また、退院後も適切な栄養管理が継続できるよう、多職種が連携して行う退院支援のためのカンファレンス等に管理栄養士が参画しています。
	退院支援等カンファレンス参加件数 206 件	退院支援等カンファレンス参加件数 195 件	退院支援等カンファレンス参加件数 366 件		
栄養サポートチーム（NST）活動件数	回診回数 43 回	回診回数 34 回	回診回数 46 回	栄養サポートチーム（NST）回診回数・回診延べ人数	栄養サポートチーム（NST）とは栄養管理を管理栄養士、医師、看護師など様々な医療スタッフによって支援・実施するチーム医療のことです。定期的にメンバーによる回診等を行い、患者さんの状況を確認して適切な栄養療法を検討しています。
	延べ人数 156 人	延べ人数 93 人	延べ人数 296 人		
栄養情報提供書発行件数	48 件	23 件	173 件	栄養情報提供書を発行した件数(栄養サポートチームが対応した患者について、転院先の医療機関や入所先の高齢者福祉施設等に発行した栄養治療計画書の件数も含む)	継続した栄養管理が必要な低栄養状態や摂食嚥下障害及び慢性疾患等の疾病を有する患者さんに対して、退院後も公社病院で提供している適切な栄養管理の継続を可能とするため、転院する施設や在宅向けに食事の内容や形態等を記載した栄養情報書を発行しています。
8 リハビリテーションに関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
100床当たりのセラピスト数	2.05 人	2.75 人	3.48 人	セラピスト人数÷病床数×100床	セラピスト人員配置の充実度を示す指標です。
リハビリテーション実施患者の在宅復帰率	70.7 %	79.5 %	76.9 %	在宅復帰件数÷全リハビリテーション実施患者数	自宅退院時には、在宅でのリハビリ継続にむけて地域の介護スタッフ向けに申し送りを、個別に作成しお渡ししています。
患者一人あたりのリハビリ実施単位数	1.32 単位	1.43 単位	1.4 単位	リハビリ実施単位数÷患者数	リハビリを受けられる時間の長さや充実度を示す指標です。
入院日からリハビリテーション処方日までの日数	当日～2日目 42 % 3日～5日 30 % 6日以降 28 %	当日～2日目 39 % 3日～5日 33 % 6日以降 30 %	当日～2日目 28.9 % 3日～5日 42.5 % 6日以降 28.6 %	入院日-リハビリテーション処方日 「当日～2日目」、「3日～5日」、「それ以降」、の各割合を算出	リハビリ実施患者全体の72%が早期にリハビリを開始しています。また重症の方でも病状が落ち着き次第早期に介入を開始しています。
入院患者に対するリハビリ実施患者の割合	16 %	16 %	16.9 %	リハビリ実施患者数÷入院患者	入院患者のリハビリの介入率を示すことにより、入院中の機能の低下や機能の改善に取り組む指標です。
リハビリテーション依頼の科別割合	内科：33.9 整形外科：25.9 脳外科：13.9 緩和ケア科：11.4 外科：8.0 循環器科：4.7 泌尿器科：1.4 皮膚科：0.0 耳鼻科：0.7 婦人科：0.1 小児科：0.0	内科：34.5 整形外科：31.6 脳外科：8.6 緩和ケア科：7.8 外科：7.7 循環器科：7.7 泌尿器科：1.1 耳鼻科：0.8 婦人科：0.2 皮膚科：0.0 小児科：0.0	内科：40.0 整形外科：19.9 脳外科：8.5 緩和ケア科：13.1 外科：6.6 循環器科：8.8 泌尿器科：1.6 耳鼻科：1.0 婦人科：0.6 皮膚科：0.0 小児科：0.0 歯科口腔外科：0.1	依頼科件数÷全依頼件数 を各科ごとに算出	リハビリテーション科への依頼件数を各診療科別で割合を表しています。
9 看護に関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
褥瘡発生率	1.43 %	1.21 %	1.26 %	[院内褥瘡発生数÷(当月の新入院患者数+前月終日在患者数)]×100	褥瘡とは、長時間の圧迫などにより皮膚が循環障害を起こし傷となる、いわゆる「床ずれ」の状態をいいます。当院では、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など様々な職種により構成される褥瘡対策チームが中心となり治療・ケアをして褥瘡発生防止に努めています。この褥瘡発生率は看護ケアの質評価の重要な指標とされています。
褥瘡発生リスクの高い人に対する体圧分散寝具の使用率	100 %	100 %	100 %	体圧分散寝具使用数÷褥瘡計画立案数×100	体圧分散寝具とは、身体を包み込み突出部の圧力を低くすることができます。電源を必要としないウレタンフォームのマットレス、電源を必要とし圧を切り替えるエアマットレスがあります。褥瘡を予防するために高い効果が期待できます。耐圧分散寝具の使用は予防に重要です。
患者・家族のケア満足度	81.9 %	81.5 %	未実施 %	患者満足度調査における入院・外来（平均）のケア満足度	入院、外来の患者さんに当院の看護師の対応についてアンケートを行った際に、「十分」、「ほぼ十分」と答えた方の割合です。今後も高いケア満足度を目標として医療サービスの向上を図ってまいります。
特定行為研修修了者数	0 人	1 人	1 人	年度末に在籍している常勤職員の修了者数	感染管理認定看護師1名が特定研修を修了しました。今まで以上に専門的な技術や知識を持って、感染症の進行や全身状態悪化を防止し、安全安心な療養生活が継続できるように支援してまいります。
10 医療安全に関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
転倒・転落率	0.23 %	0.31 %	0.31 %	インシデント・アクシデントレポートが提出された転倒・転落件数÷期間中の入院患者数×100	入院している患者さんの中には年齢や病気の影響により、転倒したり、ベッドなどから転落したりする可能性が高い方もいます。転倒・転落の原因や要因について分析等を行い、予防策を講じて、転倒・転落を防いでいます。
転倒・転落による損傷発生率	0.007 %	0.011 %	0.005 %	転倒転落により事象レベル3以上件数÷期間中の入院患者数×100	転倒・転落の中でも損傷レベルの高い事例の発生率は、患者への予防ケアの分析・評価に活用し、予防策を講じることにより、転倒・転落による損傷の低減に役立っています。
医療安全研修	医療安全 10 回	医療安全 10 回	医療安全 10 回	年度内の開催実績数	職員の医療安全意識の向上を図るとともに、病院全体の医療安全を向上させることを目的とし、医療安全研修や情報セキュリティ研修を実施しています。
情報セキュリティ研修	情報セキュリティ 6 回	情報セキュリティ 1 回	1 回		

11 地域連携に関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
紹介・逆紹介患者率	紹介率 87.3 %	紹介率 88.3 %	紹介率 86.6 %	地域医療支援病院要件に準拠	他の病院または診療所から紹介状により紹介された人の割合（紹介率）及び当院から他の病院または診療所に紹介した人の割合（逆紹介率）です。当院は地域医療支援病院に指定されており、そのための要件の1つにもなっています。今後も地域で信頼される病院作りに努めていきます。
	逆紹介率 90.4 %	逆紹介率 98.3 %	逆紹介率 94.2 %		
地域連携バス実施数	107 人	123 人	97 人	地域連携バスごとの使用患者数	患者さんの病気の回復過程に応じて、急性期・回復期・維持期・在宅療養における治療と必要な情報が切れ目なく推進するための診療計画を作成し、治療を受けるすべての医療機関で共有して用いています。診療にあたる複数の医療機関が、役割分担を含め、あらかじめ診療内容を患者に提示・説明することにより、患者さんが安心して医療を受けることができるよう努めています。
	4 個	4 個	4 個		
医療従事者等研修会開催数	研修会 25 回	研修会 19 回	研修会 10 回	医療従事者を対象とした研修会等の開催件数	地域の中核病院として、地域の医療機関への情報提供等を積極的に実施しています。
広報誌発行部数	広報誌 10,400 部	広報誌 10,400 部	広報誌 10,400 部	広報誌（病院だより、医師プロフィール）発行部数	
連携医数	754 人	745 人	738 人	連携医の登録数	連携医として登録をしている地域の医師、歯科医師の数及びMRI、CT、RIなどの高額医療機器を連携医と共同で利用した件数です。地域医療支援病院として地域との連携強化を引き続き図っていきます。
高額医療機器の共同利用件数	2,058 件	1,930 件	1,509 件	主な高額医療機器（MRI、CT、RI）の共同利用件数	
12 医療サービスに関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
患者満足度	入院 87.3 %	入院 87.0 %	未実施 %	「あなたは全体としてこの病院に満足していますか。」という問いに対し「満足」「ほぼ満足」と回答した割合（入院・外来）	当院が提供する医療サービスに対して、患者さんがどのように感じているかを把握し、その結果を反映していくことで、医療サービスの一層の充実を図るために実施しています。引き続き、高い患者満足度を維持・向上できるよう努めていきます。
	外来 80.0 %	外来 78.2 %	未実施 %		
13 医師・看護師・コメディカルの資格等に関する指標					
指標項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	定義、指標計算方法等	説明コメント
資格認定医師、専門医師数	/	/	別紙1のとおり	調査時点の人数(常勤職員+月16日以上勤務非常勤)	当院には各学会等で認定された、高度な知識や技術、経験を持った職員がいます。より質の高い医療サービス提供のため、多くの職員が認定を取得していくよう、人材の育成に取り組んでいます。
認定看護師数				調査時点の人数（常勤職員）	
コメディカル部門の認定者・専門者数（放射線、検査、薬剤、栄養）				調査時点の人数（常勤職員）	
事務部門の認定者・専門者数				調査時点の人数（常勤職員）	

医師部門の専門者数一覧	
資格名	人数
整形外科専門医	3
皮膚科専門医	1
放射線科専門医	1
眼科専門医	2
産婦人科専門医	2
耳鼻咽喉科専門医	1
泌尿器科専門医	2
病理専門医	1
総合内科専門医	10
外科専門医	10
糖尿病専門医	1
肝臓専門医	1
循環器専門医	4
呼吸器専門医	2
消化器病専門医	4
腎臓専門医	1
小児科専門医	2
消化器外科専門医	3
細胞診専門医	2
脳神経外科専門医	3
消化器内視鏡専門医	4
神経内科専門医	1
リウマチ専門医	2
乳腺専門医	1
大腸肛門病専門医	1
婦人科腫瘍専門医	1
口腔外科専門医	1

看護部門の認定者・専門者数一覧			
資格名		人数	
認定看護管理者		1	
認定看護師		14	
認定看護師内訳	感染管理認定看護師	2	
	緩和ケア認定看護師	3	
	がん化学療法看護認定看護師	1	
	乳がん看護認定看護師	1	
	皮膚・排泄ケア認定看護師	1	
	救急看護認定看護師	1	
	手術室看護認定看護師	1	
	集中看護認定看護師	1	
	慢性心不全看護認定看護師	1	
	認知症看護認定看護師	1	
糖尿病看護認定看護師	1		
栄養サポートチーム(NST)専門療法士	1		
日本糖尿病療養指導士	1		
リンパドレナージ初級	1		
リンパドレナージ中級	1		
呼吸療法認定士	1		
第1種内視鏡技師	5		
コメディカル部門の認定者・専門者数一覧			
所属	資格名	人数	
薬剤科	栄養サポートチーム(NST)専門療法士	2	
	がん薬物療法認定薬剤師	2	
	緩和医療暫定指導薬剤師	1	
	緩和薬物療法認定薬剤師	1	
	感染制御専門薬剤師	1	
	抗菌化学療法認定薬剤師	2	
	感染制御認定薬剤師	2	
	小児薬物療法認定薬剤師	1	
	医療薬学専門薬剤師	1	
	日病薬学認定薬剤師	2	
	日本薬剤師研修センター認定薬剤師	6	
	臨床救急認定薬剤師	1	
	日本医療情報学会認定医療情報技師	1	
	日本中毒学会認定クリニカルトキシコロジス	1	
	認定実務実習指導薬剤師	6	
	診療放射線科	第1種放射線取扱主任者	3
		第2種放射線取扱主任者	1
核医学専門技師		2	
放射線治療専門放射線技師		1	
放射線治療品質管理士		1	
磁気共鳴専門技術者		2	
X線CT認定技師		6	
救急撮影認定技師		2	
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師		7	
胃がん検診専門技師		3	
肺がんCT検診認定技師		1	
放射線管理士		7	
放射線機器管理士		4	
医用画像情報精度管理士		1	
臨床実習指導教員		8	

コメディカル部門の認定者・専門者数一覧			
所属	資格名	人数	
検査科 臨床検査技師	細胞検査士	4	
	国際細胞検査士	4	
	緊急臨床検査士	1	
	超音波検査士 (消化器領域、循環器領域、泌尿器領域、体表臓器領域、産婦人科領域、血管領域)	3 消 循 泌 体	
	血管診療技師	1	
	認定心電検査技師	1	
	2級臨床検査士	6	
	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	3	
	検査科 臨床工学技士	透析技術認定士	1
		3学会合同呼吸療法認定士	2
高気圧酸素治療技師		1	
不整脈治療専門臨床工学技士 (旧名称:ペースメーカー関連専門臨床工学技士)		1	
栄養科	第2種ME技術者	4	
	日本糖尿病療養指導士	5	
	病態栄養認定管理栄養士	2	
	栄養サポートチーム(NST)専門療法士	2	
リハビリ	がん病態栄養専門管理栄養士	2	
	日本理学療法士協会認定理学療法士(脳卒中)	1	
	日本理学療法士協会認定理学療法士(管理運営)	1	
	日本語聴覚士協会認定言語聴覚士(摂食嚥下)	1	
	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	1	
	3学会呼吸療法認定士	4	
	福祉住環境コーディネーター2級	2	
	日本救急医学会ICLS	1	
	成人ボバース基礎・上級講習会修了	2	
	精密知覚機能検査講習会受講修了	2	
	糖尿病療養指導士	1	
	介護支援専門員	2	
	事務部門の認定者・専門者数一覧		
所属	資格名	人数	
事務	診療情報管理士	1	
	医療経営士	1	
	医療事務管理士(医科・歯科)	1	
	第一種衛生管理者	1	
	第二種作業環境測定士	1	